

5 奥三河地域における支え合い事業

(奥三河地域会議の1年間の取り組み、成果とこれからの課題)

(1) 対象地域

会議には新城市、設楽町、東栄町、豊根村の1市2町1村の行政、社協、市民団体等が構成員として参加しました。高齢化、過疎化という共通課題に取り組むため広域での地域会議となりました。

(2) 奥三河地域会議開催状況

奥三河全域を対象にするか、どこかの“町”を対象にするか検討する場を準備会として持ちました。結果として、1市2町1村の奥三河全域にわたる行政・社協・住民組織・農協の方たちに地域会議の構成員として参加していただけることになり、計、5回の話し合いを行いました。

各会議のテーマと参加団体及び日時会場は以下の通りです。

会議名	テーマ	参加団体名/参加人数	日時・会場
第1回奥三河地域会議準備会	社協の活動と困ったことの共通性を探します。	行政1名 社協2名 商工会1名 市民団体2名 福祉団体3名 JA愛知東1名 コープあいち4名 計14名	2012年7月21日 2時～5時 キラリンと一歩 地域交流センター
第2回奥三河地域会議準備会(学習会的に開催)	支え合う関係が持続的に発展するための環境等について	福祉団体23名 コープあいち4名 個人2名 計29名	2012年9月23日 10時～12時30分 キラリンと一歩 地域交流センター
第1回奥三河地域会議	各市町村の高齢者対応の現状と課題を検討します。	行政3名 社協4名 市民団体1名 個人2名 福祉団体3名 JA愛知東1名 コープあいち6名 計20名	2012年9月28日 2時～5時 キラリンと一歩 地域交流センター
第2回奥三河地域会議	第1回地域会議を受けて具体的なテーマを検討します。	行政3名 社協5名 福祉団体3名 個人2名 JA愛知東1名 コープあいち5名 計19名	2012年11月27日 2時～5時 キラリンと一歩 地域交流センター
第3回奥三河地域会議	高齢者の居場所創りと13年度のすすめ方をまとめます。	行政5名 社協5名 福祉団体3名 個人3名 JA愛知東1名 コープあいち5名 計22名	2013年2月5日 2時～5時 キラリンと一歩 地域交流センター

(3) 広汎な奥三河地域の生活課題と関連させて

準備会議で出された様々な問題意識

第1回準備会において、東栄町役場、設楽町社協、設楽町商工会、市民団体、JA愛知東等々の方たちに奥三河地域の地域課題を出し合っていました。

〈主な意見から〉

- 買物困難が『困りごと』で上位に挙げられています。
- 安否確認や生活での幾多の細かな支援が必要です。
…“昼間独居”と呼ばれる方たちへは法的支援がありません。同居の方が働いている間、独居となる方への不安があります。
- 食事会の取り組み…見守りの意味で食事会を開催しています。
回数が増やせないことが課題です。
- 緊急対応…広域(移動車で30分/往復1時間)な地域のため時間が費やされます。
- 制度の利用…就労継続支援制度の活用で“困りごと”解決へ発展する可能性を模索します。
- 若者就労…長く働けない現実があります。交通・買物・医療・教育施設等が不便です。

“困ったこと”の問題解決に共通していること

- 地域の特徴がそれぞれにあります。

現象(困ったことの各場面)を1つの組織で解決していくことには無理な場合もあります。できない事をできるようにするのではなく、地域にある『地域力』、施設・団体・総ぐるみで『テーマ』を検討することで解決する方法を一致させることができます。結果、最大数の問題を解決に到ることにつながります。総ぐるみの意味から、奥三河地域会議の対象を奥三河全域とします。

(4) 困ったことを解決するために“できる、できそう”なこと

社会福祉協議会の報告から

- 昼間独居となる高齢者へ何らかの見守りが必要と考えます。
- 高齢者の最大の敵は『孤独』です。この孤独を癒す仕組みを検討しましょう。

JA愛知東として検討してきた“住み良い地域づくり”

- 13年度からスタートします。その内容は、Food(食糧)・Energy(省エネ)・Care(介護・看護・お世話)の3つのカテゴリーに分類して、組合員の願いを形にした“くらしに役立つテーマ(課題)”に整理し以下の点を焦点の課題と考えています。
- ① 遊休地等の活用…市民農園・貸農園
- ② 「水と緑を守るJA」・職員と地域住民で行う清掃活動・耕作放棄地の耕作(千枚田等)・長期的課題として太陽光発電や水力発電
- ③ 高齢者見守り隊の発足・地域住民の抛り所の場づくり(サロン)・女性部の助け合い組織の充実・独身者へのサポート等です。

ゆたか福祉会 キラリンと一ぶができそうなこと

- 地域への貢献を具体的な形として“地域交流センター”の活用を提案します。

コープあいち新城センターができそうなこと

- 何人かで注文いただいた生協商品を1ヶ所にセンターからお届けします。

その商品(個人毎に仕分けていない商品)をこの場所で個人別に仕分けして、個別に宅配するか、この場所に注文した人が取りに来るか、といった2つの仕組み(受け取り方)があります。この仕組みを見守りやサロンと関係付けて具体化ができればと考えています。

確認された方向性

- しんどいと感じる活動は長続きしません。この支え合い事業を実践するのは、地域の有志の人たちです。この人たちと話し合いを重ねて理解が深まり、必要だと感じて初めて、みんなでの行動が可能になります。町役場・社協・協同組合もこの人たちを支援します。
- 人が集まる“場”を創ることは、極めて重要な課題です。特に孤独に苛まれている高齢者にとって焦眉の課題です。

(5) 居場所をつくり、孤独と仲良しになりましょう！

居場所の必要性

自分たちが自分たちらしく過せる時間と場所は自分たちでつくろう。人は多かれ少なかれ孤独です。孤独と仲良しになりましょう。人と1口、数回話しましょう。1日数回、笑いましょう。

孤独は誰でも持っています。邪魔物、厄介者として扱わず、仲良く付き合ひましょう。

地域会議では、居場所づくりとその運営について、以下のとおり話し合いました。

場所は…?

- ① キラリンと一ぶからの提案…地域交流センターの貸し出し
- ② JA 愛知東管内に活用できる施設がいくつかあります。
- ③ 地域からの紹介例としては、公民館(集会所)等の活用があります。

運営について

- ① 空家の維持も含めて活用が必要です。障がい者の方たちが働く“場”で等々、その場所で週一回程度の即売を行い、多様な企画を作ることでの話題づくりを地元商工会・協同組合等が支援します。また、地元住民が発足させた『○○○会』等の主体団体の支援を行政や社協が行うことが考えられます
- ② サロンのような内容で運営を行う居場所創りも考えられます。民間的な発想で経営を行い、ボランティア(有償)の参加も含め、楽しい企画をすすめます。喫茶店的サロン等も考えられます。
- ③ 拠点づくりが社会インフラ(資源)となっていく…そんな視点と発想を持つことも大切です。

(6) 地域会議において出された今後の目標・課題

今後の目標

- 食事会を手段として、見守り活動をすすめています。食事会では回数に制限があり、様々な取り組みを通して見守り活動が展開されることを期待します。
- 元気な方も含めて、全高齢者宅を訪問して状況等の把握に努めたいと考えています。そうした活動を通して、今の生活ニーズの把握ができればと考えています。
- 介護期間が長引いた場合におけるケアラーへの対応も考えたいと思います。
- 新しい公共の発想で生活支援をすすめる4地域で合同チームを発足させて、そこを軸に具体化を図るような仕組みを検討しましょう。
- 居場所づくりのモデル地域を設けて、住民主体の具体化を図ることを考えましょう。
- 4地域、それぞれが具体化を図る上で固有の状況があり、実践を図る上では統一のテーマは難しいと思います。支え合う視点から気持ちの上でひとつに表現できる目標を考えましょう。

今後の課題

- 実行課題(居場所づくり)の進捗及び調整、実務課題の出現と対応等々が予想されます。
また、主体になっていただく、周辺住民の方たちの捉え方(生活支援や居場所といった表現への違和感や抵抗感)も鑑みて、十分な理解と呼び名も含めて1からの話し合いが必要です。
- 地域会議で話された居場所づくりの場所や行政・社協の関わり、市民団体の関わり方、生協と農協相互の連携など具体的な課題として整理します。